

丸亀市ワーク・ライフ・バランス推進コンサルタント派遣事業

第3次男女共同参画プランまるがめの重点目標の一つとして挙げている「男女のワーク・ライフ・バランスの推進」実現のため、昨年度『丸亀市ワーク・ライフ・バランス推進コンサルタント派遣事業』を公募企業2社に実施しました。支援は2月末で終了していますが、支援がなくとも自走される姿を取材するべく、各社からコメントをいただきました。

支援から
約半年が経過
しました

コロナ禍の影響があると思いますが、
支援終了後の従業員の反応や影響は？

経営理念の明文化で社員が丸に **アーチ株式会社** (丸亀市綾歌町栗熊東71-1)

業務量が従業員間で見えないのを解消するようタイムマネジメントの研修を受けたり、コミュニケーション向上のための支援をしていただいたりしたことで、従業員一人一人、時間の使い方がシビアになったと思います。

まだまだ個々により意識の差はあるものの、効果的な面談の仕方も指導いただいたことにより、経営者である私の思いが従業員によく伝わったと感じています。コロナの影響で一時、利用を控えられた利用者さんもいらっしゃいますが、訪問看護は人と人のかかわりが非常に大切です。

対策説明を十分にし、ご理解いただいたうえで、今年7月に明文化した企業理念「人を元気に まちを元気に」を実現すべく今後も支援内容の質の向上を従業員と一緒に図っていきます。



代表取締役
藤川憲太郎さん

個人面談が会社の潤滑油に **亀山石油株式会社** (丸亀市昭和町15番地)



専務取締役
亀山 大輔さん

今回の支援によって個人面談を正式に始めることとなりましたが、先行きが見通せないコロナ禍の現在では特に、面談による双方向のコミュニケーションが図らずも、会社の潤滑油になったというのが感想です。これまでトップダウンの意思疎通だったものが、支援の中で行ったワークショップにより従業員が自分の意見を伝えるメリットを理解したことも相まって、業務に対する意見が多く出るようになったのです。

今回、定年退職した従業員の業務振り分け、引き継ぎについては、経営層からの分担指示を待たずに、従業員が自主的に割り振りをしました。与えられる制度ではなく、自分たちが安心して働ける環境＝風土づくりをする。この気持ちを大切に従業員と共に良い風土を深化させていきます。

編集後記

電話のポーズは、耳の横で親指と小指を立てて受話器のようにすること。私はこれを当たり前と思っていましたが、スマホ世代は手を広げてパーにし耳に当てるようです。自分にとって当たり前なことでも人にとっては違うかもしれない。働き方も同じではないでしょうか。不妊治療と仕事の両立についても漠然としたイメージではなく、実際の声を知ってほしいという思いで今回の特集を書きました。さまざまな事情と仕事の両立で悩んでいる方、事業主の方の一助となれば幸いです。(H)



不妊治療と仕事の両立

不妊治療について
こんなイメージ
持っていませんか？

治療さえすれば、
子どもはできるでしょ？

20代は大丈夫でしょ～

レアなケースでしょ？
そんなに多いの!?

よく分からないけど、
なんか抵抗ある

男には関係ない!!



今回は、不妊治療にまつわる実態と仕事との両立、費用面の支援についてご紹介します。特集の後半では、専門家の意見として、丸亀市にある厚仁病院理事長の松山先生にお話を伺いました。

約5.5組に1組 ※1

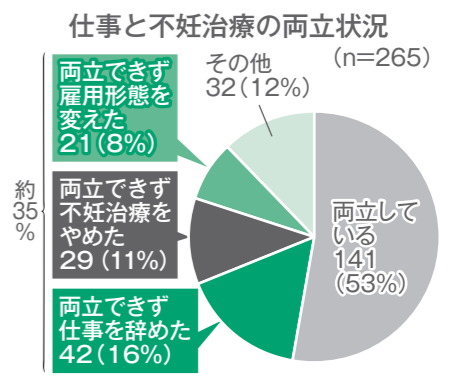
日本では、晩婚・晩産化に伴って不妊に悩む夫婦が増えています。実際に約5.5組に1組が不妊検査や治療を経験しており、その割合は年々増加しています。



仕事と両立できない人が約35% ※1

不妊治療をしたことがある労働者のうち半数以上が仕事と両立していますが、約16%は退職し、約11%は治療をやめ、約8%が雇用形態を変えています。仕事を続けたいと思っても、やむを得ず退職したり治療を諦めたりしていると考えられます。

しかし、人手不足と言われている中小企業においても、仕事優先といった考え方にならざるを得ないのが現状です。



当事者の声

出典：NPO法人Fine（ファイン）～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～「仕事と治療の両立についてのアンケート」よりコメント抜粋

周りの理解が乏しく急な勤務変更や遅刻、早退などをすると厳しいかけ声が聞こえてくる環境でした。それがストレスで私は退職しました。

時短勤務にしたいが給料が減ると不妊治療代が払えない。一度非正規になると復帰した時に正社員になりづらい。

突然の休暇もありうるという現実を知ってほしい。また仕事もちゃんとしてほしい。責任感がある人ほど、精神的に本当に辛くなると思います。

女性が家事を担っている場合が多いので、仕事と家事と治療の3つを両立させるのは、とても大変でした。仕事を時短契約に変更しても、肉体的・精神的負担は大きかったです。

上司の理解。職場に気を使いながら治療するかそうでないかは、長期にわたる不妊治療における精神的負担がだいぶ違う。現在の職場で上司の理解を得て、こんなにありがたいことはないと感じた。



※1 厚生労働省2020年3月作成「不妊治療を受けながら働き続けられる職場づくりのためのマニュアル」より